

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」第3回選定地区訪問

「畑特産物生産出荷組合」（兵庫県養父市）

平成28年11月10日（木）、第3回「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」に選定された兵庫県養父市の「畑特産物生産出荷組合」を訪問し、活動の概要や今後の取組などについてお聞きしました。以下にその内容を紹介します。

（活動概要）

○集落ビジネスによる地域活性化 ～ 朝倉山椒を海外へ ～

大学等の協力を得ながら、地域特産の「朝倉山椒」を使った新商品を開発し、直売所等による販売のほか、ミラノ万博関連イベントへの出展やイタリアなど海外への輸出にもチャレンジしている。更に、朝倉山椒の軸取り作業等の1次加工について、障がい者団体に委託を行い、農と福祉の連携による新たな仕事も創出し、地域の活性化に貢献している。



○取組活動の動機・背景

畑地区は人口166人（うち65才以上77人、高齢化率46.4%）、世帯数は55世帯（独居老人世帯13世帯、高齢者夫婦世帯19世帯）の中山間地域に位置する集落であり、昭和40年頃までは養蚕業と1～2頭の繁殖牛の飼育で生計が立てられていたが、養蚕業の衰退以降、それに代わるものとして当時はどこの家にも軒先に植栽されていた朝倉山椒を地域の特産として栽培する農家が増加してきた。



朝倉山椒の収穫風景

昭和55年に有志数名で価格の変動対策として共同出荷を始め、その後、昭和57年に現在の畑集落全戸を構成員とする当組合を発足させた。

昭和58年に浅野小学校畑分校が廃校となり、その空き校舎を活用できないかと検討し

た結果、翌年に廃校舎を改築した農産物加工所において、婦人グループによる山椒、山菜、餅等の加工を開始するとともに、花茶販売やふるさと便の発送を開始した。

集落内で収穫される朝倉山椒を使った佃煮の加工は順調に売上げを伸ばしたが、近年は高齢化等により生産、売上がピーク時の3分の1にまで落ち込み、継続が危うい状況となっていた。組合運営の下降に伴って集落の元気がなくなってきたことの危機感から、大学などの協力を得て将来に向けた集落内の話し合いを進め、朝倉山椒の新商品の開発に取組み、その販売に全力を注いでいくこととなった。

○取組の具体的活動について

具体的には、集落の方々から集落内で収穫される朝倉山椒の6次産業化による元気な村づくりに対する意見や提案を受けて新商品の開発に乗り出すこととした。手始めに山椒の6次産業化に取り組まれている先進地の視察を行い、加工から販売に至るまでの取り組みを学ぶとともに、ペーストを使った商品なら自分達でも作れるのではないかという加工に携わる女性の意見を踏まえ、山椒ペーストを使った製品作りに取り組んだ。

その過程において、県北部農業技術センターや朝来農業改良普及センターの指導や野菜ソムリエのアドバイスも受けて試作改良を繰り返した結果、無事完成に至ることができた。



収穫した朝倉山椒をイタリアンソースに加工

更に、大学等の協力も得て、朝倉山椒を使ったイタリアンソース「山椒ジェノベーゼ」や市内の老舗でつくられる味噌を使用した和風の「山椒味噌（赤みそ）」と「山椒味噌（白みそ）」が完成し、以前からある佃煮と合わせて4アイテムをそろえることができた。

商品化には、若年層を視野に入れ球形の瓶詰め容器を使用し、見た目からも好印象を与え購買意欲が湧くよう工夫している。

販売面では、直売所、イベント、通販を中心に順調に売上げを伸ばし、特に箱入り3点セットは贈答用として好評を得ている。また新たな販売先を求めて平成26年に東京と大阪で開催された展示商談会への出展を行った。イベントでの試食販売においては「山椒ジェノベーゼ」がとてもおいしいとの高評価を頂いている。

また、輸出へのチャレンジとして、養父市の地域公共会社「(株)やぶパートナーズ」と連携のうえ、輸出用として生産管理がしっかりできている無農薬・無化学肥料の山椒をミラノ万博関連イベントへ出展し、その後 JETRO の協力を得て、平成 28 年 4 月に冷凍朝倉山椒 10 kg をイタリアへ、また 9 月にはフランスに対しても 10 kg の輸出を行った。今年度はこれらと合わせて 200 kg の輸出を見込んでいるところである。



イタリアのバイヤーとの商談



イタリアの一つ星レストラン
シェフが試食し絶賛

更に都市部の障がい者作業所の仕事が不足しているなかで、「手をつなぐ育成会」に対し山椒の 1 次加工の軸取り作業とブランピング作業を委託して、障がい者の新たな仕事を創出するとともに、作業所への山椒の運搬を市のシルバー人材センターへ委託することによって、高齢者の仕事を通じた生きがいがいづくりに貢献するなど、「農業」と「福祉」を連携した取組みを始めている。現在は、障がい者への作業委託は休止しているが、農福連携の取組については今後も継続していきたいと考えていることから、新たに市内の障がい者デイサービスとの連携を模索するとともに、市の福祉部局へも相談しているところである。



障がい者作業所での山椒の軸取り作業風景



シルバー人材センターによる山椒の運搬

○取組による効果について

本組合の売上額は年々下がり続け、近年では 8 百万から 9 百万円台で推移していたが、平成 26 年に新商品を発売した後は徐々に売上げを伸ばし、平成 27 年度に年間 1 千 5 百万円を超え、平成 28 年度には 3 年前の約 3 倍の 2 千 4 百万円を見込めるまでに至った。雇用についても 11 名から 15 名に広がり、昨年 1.5 トンだった加工重量も今年度は 2.8 トン

に増加する目途が立っている。

売上げを伸ばす一方で、加工に必要な地元産の朝倉山椒を確保するため、耕作放棄されていた農地や不作付け農地を再生して、朝倉山椒の苗木を植付ける取り組みを行った結果、集落の大きな課題であった耕作放棄地対策が進展した。

また、少量ではあるが、海外輸出の成功によって新たな販路開拓への期待が広がったことや福祉事業との連携による社会貢献的要素が加わったことなどから、伝統農産物を使った6次産業化の成功を、若い世代の雇用創出や営農リーダー育成などにつなげていこうという気運が集落全体に生まれ、集落が再び活気を取り戻しつつある。

○今後の展開方向等について

軌道に乗るまでには様々な障害があった。特に、平成16年、高速道路の建設に伴い現在の場所に加工所を移転する話が出た時には、このまま続けるべきかどうかで議論もあった。しかしながら、一部の生産者のみが活動するのではなく、農家・非農家を問わずみんなで活動することが大事であることを意識付け、集落全員が組合員として毎年1,000円の組合費を徴収したことが今日につながっていると思っている。



山椒加工所

山椒は嗜好品なのでまずは味を知ってもらうことが大事。これからはウナギにかけるだけのイメージを払拭して山椒製品の販売を拡大するとともに、新たな加工品の開発にも取り組んでいきたいと考えている。

販売で得た利益については、これまで区内の催事や共有施設の修繕など維持管理に充ててきたが、近年は事業の拡大を進めるなかで、充填機、フードプロセッサ、冷凍庫などの設備投資に充てるのが精一杯で、まだ組合員に還元できるだけの大きな利益は生み出すに至っていない状況である。事業の拡大に当たっては、法人化することにより有利な融資や補助等が見込めるため、現在話し合いを進めているところである。

「自ら産業を育み、人を育て、自立した村を目指す。」ために、若い世代の雇用を創出し、集落全体で農業・農地を守りながら村の活性化につなげる人材を育成していきたいと考えている。当面は、和歌山や高知などの他産地との違いを明確に出しつつ朝倉山椒の商品売上を伸ばして儲かる農業を進め、財源を確保し、5年後には、集落の将来を担う若い世代の働く場をつくっていくことを目標にしている。

こうした取組が認められて今回「ディスカバー農山漁村の宝」に選定されたということを
これからの励みにして、更に美しく活力ある村を創っていきたいと考えている。

訪問日時：平成 28 年 11 月 10 日 15:00～16:30

対応者：奥藤運営委員長、梅谷組合長、中島副部長、守本運営委員

訪問者：厨局次長、阪口農村計画課長、松岡課長補佐

※「ディスカバー農山漁村の宝」に関する問い合わせ先 TEL:075-414-9050 近畿農政局農村振興部農村計画課 松岡、野村まで
